序

炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease: IBD）、潰瘍性大腸炎（Ulcerative colitis: UC）とクローン病（Crohn's disease: CD）、は一端発症すると大部分の患者は再燃と寛解を繰り返しながら慢性の経過を辿る難治性疾患である。病因・病態は不明のままであり完治を可能にする療法はなく、長期に渡る通院加療そして頻回の入院加療を強いられその結果、就学・就業あるいは結婚・出産といった日常生活にも支障をきたし QOL は大きく損なわれている。平成 27 年 1 月 1 日より施行された難病法により、両疾患は指定難病と同時に特定医療費助成対象疾患に改めて認定された。近年、両疾患症例数の増加は極めて顕著であり、平成 27 年度には UC 総数は 18 万人、CD 総数は 4 万人を超え、UC は指定難病そして特定医療費助成対象疾患の中で最大患者数の疾患となっている。

「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班は過去 40 年にわたり、本邦における IBD の実態を明らかにし IBD 発症・増悪要因解明に向けた疫学研究、時代に即した診断基準や治療指針の作成・改訂、最適治療法の確立と新規治療法開発を目指す多施設共同臨床研究の推進、病因・病態の解明を目指す基礎研究など広範囲な研究実績によって、厚生労働省難治性疾患対策事業において長年多大なる貢献を果たしてきた。平成 26 年度からは厚生労働省難病対策研究事業が変革され、主に難病疫学研究や診断・治療指針作成そして広報活動を担う「政策研究事業」の一環として「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」が私を研究代表責任者として 3 年間のプロジェクトが新規にスタートして 2 年間で終了した。本研究班では大きく 5 つの骨子を掲げ、研究分担者の先生を中心にそれぞれの骨子に沿って各種具体的プロジェクトが立案され進行中である。2 年目 2 回の総会が終了し、前研究班から引き継いだものを含めた全てのプロジェクト研究完遂に向け 2 年度目が終了し、ここに第二版の業績集を発刊することができた。各プロジェクト計画立案と実行・完遂向け多大なるご尽力をいただいている班分担研究者および班協力研究員の諸先生方に深く御礼申し上げますと共に、多くの貴重なご助言を頂いている東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科消化器病態学・前班長渡辺守先生および北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター・元班長日比紀文先生を始めとする班研究顧問の先生方に深謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

研究代表者 鈴木康夫